

KELES Newsletter

関西英語教育学会報 2012年度 第4号

事務局：〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1

神戸大学 国際コミュニケーションセンター 横川博一研究室内

Phone: 078-803-7689 E-mail: yokokawa@kobe-u.ac.jp

学会ホームページ: <http://www.keles.jp/> 2013年3月4日発行



報告

関西英語教育学会 2012年度 KELES セミナー

第28回 KELES セミナー

開催日：2013年1月29日（日）

会場：天理大学

第28回 KELES セミナーが、2013年2月3日（日）に、「英語を英語で教えること」をテーマとして、天理大学を会場に開催され、教員、学生など、約140人が参加しました。

発表1「英語で授業—中学校の場合—」では、谷口紘子先生（檀原市立八木中学校）から、どのようにして授業の中で英語を多用するかについての様々な実践が報告されました。「英語は知らない表現があっても絵やジェスチャーを通して理解できる」と語られた先生は、英語で話されても臆せず生き生きと学習できる生徒を育てるべく、絵本を使った物語の読み聞かせ、今月の洋楽、オーラルイントロダクションの多用などについて、実演やビデオを使って説明されました。熱意のこもった発表に参加者一同が圧倒されました。

発表2「英語で授業—文科省プロジェクトとこれからの高校授業を考える—」では、まず文科省の指定を受けた奈良県立桜井高校の中永利法先生から、たった10ヶ月の取組で、教師集団の意識改革から始め、授業改革を経て1月に行われた全県対象の研究発表会に至るまでが報告されました。

教員のチームワークと粘り、生徒の頑張りがすべてだったとのコメントで発表を終えられました。それを受けて、佐藤臨太郎先生（奈良教育大学）からは、理論面から見た「英語で授業」の利点と実施する際のアドバイスが述べられました。特に、クラッシュェンのインプット仮説に言及され、i+1だけでなく、時にはi-1も大切な要素であるとのこと指摘は新鮮でした。最後に中井英民（天理大学）からは、桜井高校の助言者の立場から、「すべて英語でやらなければいけない」という呪縛を解き、臨機応変に英語の使用量を調整すべきとの指摘がありました。

発表3“The Impact of Phonics on Pre-teen ESL Learners”では、Matthew Reynolds先生（English Please）より、なぜPhonicsが有効か、またどのようにして教えるのかについての発表がありました。PhonicsはReading Competenceの発達に大きな効果がある、できるだけ早く始めたほうがよい、しっかりとPhonics Programのデザインをすること、Supplementary Reading Programが必要、などの指摘がなされました。

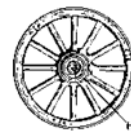
最後は、門田修平先生（関西学院大学）から、「英語で行う授業をめざして：インプットとアウトプットをつなぐシャドーイング」と題して講演をしていただきました。これまで先生が行われた

シャドーイングに関する諸研究をもとに、シャドーイングや音読は反復学習を通してインプットを内在化し、インプットをアウトプットにつなげる効果があることが述べられました。顕在記憶を潜在記憶に変えるシャドーイングについて、専門的なお話が聞けました。

夕刻遅くまで続いたセミナーですが、参加者全

員が「英語で英語を教えること」に関して意識を共有した有意義な1日となりました。

報告者：中井 英民（天理大学）



第16回卒論・修論研究発表セミナー

開催日：2013年2月9日（土） 会場：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

第16回卒論・修論研究発表セミナーが、2013年2月9日（土）に神戸学院大学ポートアイランドキャンパスにおいて開催されました。

大学英語教育学会関西支部および外国語教育メディア学会関西支部の共催にて開催された今回のセミナーでは、合計で49件の研究発表（口頭発表46件・ポスター発表3件）が行われました。今回はテーマごとに卒論・修論が入り混じったプログラム構成としたことで、口頭発表会場では、例年にも増して、学生・院生・教員という枠を超えた熱い議論が交わされていました。ポスター発表会場では、コアタイムが終わった後も熱心な議論が続いており、発表者・参加者の両方に、ポスター発表の醍醐味を再確認していただけたのでは、と感じています。

また、スペシャル・トークとして、東北学院大学の村野井仁先生をお招きし、「題材内容を重視したCLIL的スキル統合型の英語授業—第二言語習得理論に基づく検討—」というタイトルで、講演をしていただきました（概要については下記参照）。

年々忙しさが増すばかりの2月上旬という時期にもかかわらず、今年も152名の参加者が集まる盛会となりました。普段は接点がないが、同じ興味を持った人たちが、互いに知り合い、これから切磋琢磨していく関係になる。今年も会場の至る

所でそのきっかけが生まれていたことは、実行委員として、何よりの喜びでありました。

なお、卒業論文・修士論文の研究発表の発表者とタイトルの一覧、および発表要旨は、関西英語教育学会ウェブサイト（http://www.keles.jp/program/keles_gmt16_program/）にてご確認ください。

＜スペシャル・トーク＞

午前の部の発表、ポスターミニプレゼンに引き続きまして、みなさんお待ちかねの卒論・修論研究発表セミナーの一大イベント、スペシャル・トークの時間になりました。

今年度は、我が国の第二言語習得理論に基づく英語教育研究の第一人者で、*Language Learning* を始めとする国際誌の論文や著作でもつとに高名な、東北学院大学文学部英文学教授である**村野井仁先生**をお迎えしてのご講演を頂戴いたしました。村野井先生の第二言語習得理論のご研究は、ご自身の中学・高等学校で教鞭をとられた教育実践のご経験をバック・ボーンとするもので、常々、ご研究を通じて、如何に、教室で英語を学ぶ生徒たちの中に、彼女たち、彼らの英語運用能力を伸ばす変化を生みだすか、そのための教室の中で生徒たちの第二言語の認知プロセスを促す教室指導としてどのような指導が効果的か、英語教育の実践

とのリンクを念頭に置かれたご研究（「教室 SLA 研究」）で、今回のスペシャル・トークでも、そうした村野井先生の姿勢から生まれたご研究の成果が披露されました。

ご演題は、「**題材内容を重視した CLIL 的技能統合型の英語授業—第二言語習得理論に基づく検討—**」というもので、ご自身の中学・高等学校で教鞭をとられたご経験、第二言語習得理論のご研究を踏まえての、教室での英語運用能力を伸ばすための変化を生徒の中にもたらす指導についてのお話です。お話の中で登場する CLIL（クリル）とは、近年、ヨーロッパを中心に広がりを見せている、Content and Language Integrated Learning（内容言語統合学習）（Mehistro, Marsh, & Frigols, 2009）のことで、4 技能のうちの「読むこと」をベースに、生徒が題材内容を理解し、考えるという認知プロセスを通じて、生徒の価値観に影響を与え、新たなものが生まれるという、題材内容を重視した統合型授業のことです。村野井先生は、第二言語習得の認知プロセスを促す指導として、PCPP（Presentation, Comprehension, Practice, Production）による教室指導の有用性が存在し、これと CLIL とをリンクさせた、PCPP による内容重視の技能統合型英語授業の実現により、global issues を学びながら、英語運用能力をつけていく、「CLIL = 内容 + 言語能力 + ともに学ぶ（生きる）力（学び方）」の授業の例を、中学校、高等学校の検定英語教科書の題材を用いてご紹介いただきました。その中で、可能なタスクの 1 つとして、concept map を用いた story retelling のお話をされ、コミュニケーションが生まれる必然性の 1 つに information transfer があり、生徒が、題材内容を読み、理解したことをもとに土台（PCPP の PCP の部分）を作り、アウトプットができる活動、story retelling により、ターゲット構造を引き出す活動（PCPP の最後の P の部分）、再生型 focus on form（FonF）の効果も、第二言語習得理論（「教室 SLA 研究」）の

お立場から、わかりやすく丁寧に、実践事例を交えてご紹介いただきました。

そして、ご自身の東日本大震災のご経験への思い、阪神淡路大震災の地のわたしたち地元へ思いも込めて、CLIL 的技能統合型授業が育てるものとして「観（態度・姿勢）、学（知識）、術（スキル）」（遠山, 1976）を引かれ、英語教育には 2 つの目的、共生（co-existence）（TEFL for empowerment）と豊かな人間性を育てること（TEFL for enlightenment）があり、ことばの力を育む英語教育の重たさに思いを込められてご講演を結ばれました。

今回のスペシャル・トークでの村野井先生のお話は、最新の第二言語習得理論のご研究の成果と教室での英語教育をつなぎ、2 度にわたる大震災を経験したわたしたちの思いを英語教育を通じて次世代の若者を育てる卒業生・修了生に託す、暖かくも力強い、若き英語教育の担い手たちへのメッセージとなりました。

報告者：大嶋 秀樹（滋賀大学）

<発表者体験記>

【卒論】松山 董子さん（京都府立大学）

今回、初めて学外で自分の卒業論文を発表するという事で、本番が近づいてくるにつれて、申し込みをしたことを後悔するほど緊張していましたが、発表を終えた今では、たいへん有意義な経験をすることができたと嬉しく思います。

教育系の発表がほとんどを占める中で、わたしの卒業論文は文学に関するものだったため、場違いではないかと不安でしたが、専門分野が異なることで、自分では意識していなかった視点からの鋭い指摘や質問を受けることができました。日頃の授業では他大学の学生や院生の方々の発表を聞く機会は限られており、どうしても自分の興味のある範囲に偏りがちなため、様々な専門分野に関する発表を聞くことで、新たな知識を得て、視野を広げることの大切さに気がつきました。また、内容だけでなく、発表者の方々の堂々とした様子

を見ることも、よい刺激になりました。

最後になりましたが、発表の直前に、司会とコメントを務められていた加藤雅之先生に声をかけていただいたことで緊張がほぐれ、落ち着いて発表することができました。ありがとうございました。今回の経験を生かし、一層よい論文が書けるよう勉強に励みたいと思います。

【修論】林 智昭さん（京都大学大学院）

今回、20分間の修論研究発表を行う機会を頂きました。コメントを務めて下さった木原恵美子先生をはじめ、貴重なコメントの数々を下さった皆様に、心より感謝申し上げます。質疑応答を通して自分自身の研究の至らぬ点を痛感するとともに、異なるバックグラウンドを持つ皆様との議論を通して実に多くのことを学ばせていただきました。「英語教育」という分野は学際的であり、当日のプログラム題目からも、多種多様な問題意識とアプローチによって研究が行われている様子を伺うことができます。

本セミナー最大の魅力は、開会式、閉会式、懇親会において、多くの先生方が話されていたように、研究を行う若手の学問的交流の場となることを願う先輩方の気持ちによって支えられ、16年間も続いているという点です。過去に発表を行った先輩方が、情熱と愛情を持って、助言を下さいま

す。KELES という素敵な学問の場に巡り会えたこと、それが最大の収穫であったのかもしれませんが。刺激溢れる1日は、今後の研究に向けての新たな出発点となりました。

【ポスター】坂詰 由美さん（兵庫教育大学大学院）

修士論文を一枚のポスターにすることは、難しくも有意義でした。論文を再考し、一目で伝わるようにと描く中で、新たな視点が生まれ、聴衆との語り合いでさらに違う視点に気付く、とても創造的な作業でした。

ディスカッションは、小学校英語や協同学習に関心のある方々と語り合い、研究の課題や限界、考察の面白さへのコメントなどいただき、今後の研究への意欲が湧く、幸せな時間となりました。授業実践をされている方は、「学習者として児童を育てる」という観点から外国語活動の意義を語る上で、この研究が今現場で必要とされていると感じる。」と伝えてくださいました。まだまだ未熟な研究ではありますが、学外でこのように意見をいただけたことが大変嬉しく、これから、少しでもまた教育現場に貢献できるような研究をしていきたいと思いました。

私は今年4月から小学校で教壇に立ちます。この経験を糧に、今後実践をしながら研究も粘り強く続けていこうと決意しています。

学会事務局からのお知らせ

KELES行事のご案内

◆関西英語教育学会 2013 年度（第 18 回）研究大会 発表募集中！

2013（平成 25）年度関西英語教育学会（第 18 回）研究大会を下記の要領で開催します。

今回は研究大会が 2 日間に渡って開催され、研究

発表・事例報告に加えて、公募ワークショップ・公募フォーラムの発表募集を行うこととなりましたので、奮ってご応募下さい。多くの皆様のご発表・ご参加をお待ちしております。

◇日 時 2013（平成 25）年 6 月 8 日（土）・9 日（日）の 2 日間

◇会 場 関西国際大学・尼崎キャンパス（予定）
<http://www.kuins.ac.jp/>

◇参加費 関西英語教育学会会員：無料
非会員（一般）：2,000 円／非会員（学部学生・
大学院生）：1,000 円（※学生証を提示して下さい）

◇主なプログラム（予定）

1日目：6月8日（土）

会員総会／企画ワークショップ／特別講演／イブ
ニング・セミナー／レセプション（懇親会）

2日目：6月9日（日）

公募ワークショップ／公募フォーラム／研究発
表・事例報告（口頭発表・ポスター発表）／シン
ポジウム

特別講演/Plenary Lecture

Lexical facility: Developing vocabulary knowledge as a skill

—It's *what* you know and *when* you know it.—

Dr. Michael Harrington
(The University of Queensland)

◆講演の概要は、学会ウェブサイト
<http://www.keles.jp/>をご覧ください。

◇発表募集カテゴリー

研究報告・事例報告の他、公募ワークショップ、
公募フォーラムが新たに加わりました。

- (1)研究発表（理論的、実証的研究の発表）
- (2)事例報告（授業実践に関する報告）
- (3)公募ワークショップ（1人または複数の講師
による英語授業実践をテーマとした企画）
- (4)公募フォーラム（コーディネーターおよび数
名の英語教育にかかる理論的・実証的研究を
テーマとした企画）

発表募集期限：2013年4月12日（金）23:59

応募方法：本学会ウェブページの申込フォームか
ら、必要情報を入力して送信して下さい。

※詳細は、同封のご案内をご覧ください。また、
学会ホームページに随時情報をアップします。

事務局からのお願い

◆学会費納入のお願い

2013年度の年会費の納入をお願いします。また、
2011年度・2012年度分の学会費が未納の方は、納入
をお願いします。

なお、第39回全国英語教育学会でご発表を希望さ
れている方は、2013年2月28日（木）までに全国
英語教育学会に入会し、2012年度分の全国英語教育
学会学会費の納入をお済ませの方のみです。2013年
3月1日以降に入会・学会費を納入をされても、理
由の如何にかかわらず、発表資格がありませんので
ご注意ください。

各種お問い合わせフォームについて

学会ウェブサイトのリニューアルに伴い、各種お問
い合わせフォームも一新しました。お問い合わせに
は、学会ホームページの各種お問い合わせフォーム
をご利用下さい。

URL: <http://www.keles.jp/>

- ▶入会をご希望の方
- ▶研究大会
研究大会の発表応募、企業展示の申込みなど
- ▶各種セミナー
セミナーへの参加登録、発表申込み、企業展示の
申込みなど
- ▶学会誌『英語教育研究』
学会誌への論文投稿など
- ▶お問い合わせ
学会費、学会誌、研究大会、各種セミナー、入・
退会、会員情報の変更、その他学会全般に関する
お問い合わせ

